



天然記念物

77. 愛宕神社のスギ

あたごじんじゃ

■指定年月日 昭和41年1月7日(1966)

■寸法 樹高25.1m 幹周(胸高)7.65m

■所在地 宝立町春日野39-112-1

■所有者 宿神社(管理:愛宕神社氏子会)

「高井の地蔵杉」の名で親しまれているこのスギは、法住寺に通じる市道の、高井地内の路傍に立っている巨樹である。

樹幹に深い空洞ができ、樹皮が節くれだち、樹齢の古さを感じさせる。周囲に張り出した長大な枝が、湾曲して空に伸び上がり繁茂している姿は、不動明王の火炎のようだという人もいる。

法住寺は、若山荘を支配した日野家の祈祷所として、七堂伽藍と多くの支坊を擁して栄えた大寺であった。このスギのあたりが参道口であったのだろう。言い伝えでは、このあたりに法住寺の地蔵堂があったが、堂が壊れたので、地蔵菩薩像をこのスギの木の股に立て置いたところ、木が成長す

るにつれていつとなく、その地蔵菩薩が樹身の中に入り給うた、という。この伝説が「地蔵杉」の名を生んでいる。

なお、スギの脇に建つ愛宕神社は、祭神の愛宕権現の本地が勝軍地蔵菩薩であり、法住寺衰退後、地蔵堂の後身として江戸時代に建てられたと推測される。社格を持たない社であり、宿神社の付属社となっている。